

ブナの里

深緑の葉から差す初夏の日差しが眩しい黒松内町添別のブナの樹々

写真提供：黒松内町ブナセンター

- ◇ 法人新役員選任 新理事長に岡久孝雄氏が就任！・・・・・・・・・・P2, 3
- ◇ 2024年度 法人事業報告・収支決算書・・・・・・・・・・P4～6
- ◇ 法人各事業所の2024年度事業報告・・・・・・・・・・P7～12

第57回評議員会開催 決算承認と新役員の選任決定

6月24日に評議員会が開催され、2024年度事業報告並びに収支決算書が承認されました。また、本年6月の任期満了に伴う役員改選での評議員の選任が報告されました。そして、任期満了に伴う理事及び監事の解任・選任案と報酬額について承認されました。



評議員に高野裕和氏（新任）を加え10名を選任

6月17日に評議員選任・解任委員会が開催され、2025年度から4年任期の評議員10名を選任しました。新たに高野裕和氏を選任し、松田政敏氏、高木晴光氏、高橋一彦氏、松田順子



前列左から大迫氏、松田順氏、松田政氏、高橋氏、佐々木氏
後列左から高木氏（欠席）、高野氏、大久保氏、迫立氏、小野氏（欠席）

氏、大迫克司氏、小野裕氏、佐々木剛氏、大久保有慶氏、迫立司氏の9名を再任しました。

大代理事長が退任し顧問に就任

この度の役員改選では、大代理事長が退任の意向を示し、新たに理事2名と監事1名の選任を行いました。2019年6月より6年間当法人を率いてこられた大代理事長には今後もしも理事・顧問として当法人を引き続きサポートしていただきます。

社会福祉法人黒松内つくし園
新理事長に岡久孝雄氏就任！

評議員会終了後の同日午後に行われた新理事による理事会において、理事長に岡久孝雄氏を選任しました。

また、業務執行常務理事に遊部眞澄氏、業務執行理事に吉田剛氏、理事・顧問に大代理事長貴輝氏を選任。この度、新たに元黒松内町副町長である佐藤雅彦氏を理事に選任しました。他に澁谷剛氏、小谷孝夫氏、池田重人氏、高橋英俊氏を理事に再任。監事には坂口進氏（再任）と元法人常務理事の武井光秋氏（新任）が就任されました。（新役員体制は別記）。任期は、令和7年6月24日より令和9年



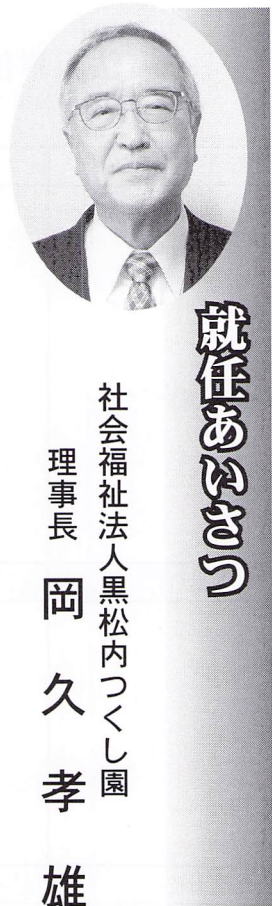
前列左から武井監事、坂口監事、大代顧問、岡久理事長、遊部常務、吉田業務執行理事
後列左から佐藤理事、池田理事、小谷理事、高橋理事、澁谷理事

6月定時協議員会までとなっております。

岡久孝雄理事長は、昭和53年に当法人に入職し法人本部や児童養護施設黒松内つくし園施設長、法人理事を歴任。令和5年より監事として法人運営に携わっています。

この度の役員改選と岡久理事長の就任により、新体制のもと当法人の事業運営を行ってまいります。社会福祉を取り巻く環境は一段と厳しさを増している中、当法人はより一層良質な福

祉サービスの提供と地域貢献に向けて取り組んでまいります。関係各位には、今後とも倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



会報「ブナの里」の誌面をお借りして、社会福祉法人黒松内つくし園理事長就任のごあいさつを申し上げます。

この度、本年6月24日開催の第446回理事会において、社会福祉法人黒松内つくし園理事長に選任されました岡久でございます。

68年余りの歴史を持つ法人の理事長という大役を務めることとなり、身の引き締まる思いであります。

昭和53年4月にご縁があり当法人に入職してから、創設者である故廣瀬清蔵元理事長のご指

導のもと、法人本部職員や児童養護施設黒松内つくし園施設長、法人理事として45年間務め定年退職、その後、監事として2年間法人運営を拝見してきました。法人の理事長を拝命するにあたり、先ず何よりも、創設者のご存命中にご教授賜りました理念や思いを後世に繋いでいくことが、私の使命であり恩返しと思っています。

故廣瀬元理事長の福祉への情熱と地域への想いを後世へと繋いでいくため、法人倫理綱領のもと、役職員が一丸となって事業運営を行って参ります。

社会福祉法人を取り巻く環境は大変厳しいものであります。人口減少による事業所の利用定員割れや介護職員をはじめ福祉従事者のなり手不足、施設の老朽化等に対応した施設整備資金増加など、経営課題が山積しています。しかしながら、そのような状況を乗り越え、困難な課題にも前向きに取り組んで参る所存でございます。

利用者様やご家族の皆様の幸福と自立支援に向け、今後も当法人がお役に立つことができるよう、より良いサービス提供に努めて参ります。また、各町村の皆様のご理解をいただきながら地域貢献に取り組んでいくとともに、関係機関の皆様のご支援ご協力を賜りながら、役職員一丸となって事業運営を行って参ります。

大変難しい舵取りになると思いますが、精一杯努める所存でございます。今後ともこれまで同様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます、理事長就任のご挨拶とさせていただきます。

社会福祉法人
黒松内つくし園 役員一覧
(2025年6月24日現在)

理事長	岡久孝雄
常務理事 (業務執行理事)	遊部眞澄
業務執行理事	吉田剛
理事・顧問	大代貴輝
理事	澁谷剛
理事	小谷孝夫
理事	池田重人
理事	高橋英俊
理事	佐藤雅彦
監事	坂口進
監事	武井光秋
評議員	松田政敏
評議員	高木晴光
評議員	高橋一彦
評議員	松田順子
評議員	大迫克司
評議員	小野裕
評議員	佐々木剛
評議員	大久保有慶
評議員	迫立司
評議員	高野裕和

第一号第一様式

法人単位資金収支計算書

(自)2024年4月1日 (至)2025年3月31日

(単位:円)

	勘定科目	予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	1,299,736,000	1,299,452,029	283,971
		老人福祉事業収入	307,244,000	308,171,639	△927,639
		児童福祉事業収入	441,999,000	442,667,271	△668,271
		保育事業収入	105,070,000	116,063,880	△10,993,880
		就労支援事業収入	45,146,000	40,440,142	4,705,858
		障害福祉サービス等事業収入	795,088,000	796,526,661	△1,438,661
		その他の事業収入	41,629,000	41,311,400	317,600
		経常経費寄附金収入	16,756,000	17,545,874	△789,874
		受取利息配当金収入	5,086,013	6,367,847	△1,281,834
		その他の収入	37,164,000	36,616,060	547,940
		事業活動収入計(1)	3,094,918,013	3,105,162,803	△10,244,790
	支出	人件費支出	1,788,345,000	1,782,223,794	6,121,206
		事業費支出	704,168,000	678,806,353	25,361,647
		事務費支出	475,131,550	462,155,087	12,976,463
		就労支援事業支出	44,676,000	45,023,788	△347,788
		利用者負担軽減額	10,028,000	9,502,335	525,665
		支払利息支出	5,688,000	5,491,132	196,868
		その他の支出	28,259,000	27,998,287	260,713
		事業活動支出計(2)	3,056,295,550	3,011,200,776	45,094,774
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		38,622,463	93,962,027	△55,339,564
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	44,011,000	40,689,500	3,321,500
		施設整備等寄附金収入	4,000,000	4,100,000	△100,000
		固定資産売却収入	250,101,000	250,100,170	830
		施設整備等収入計(4)	298,112,000	294,889,670	3,222,330
	支出	設備資金借入金元金償還支出	55,042,000	55,282,000	△240,000
		固定資産取得支出	75,314,000	72,247,320	3,066,680
		固定資産除却・廃棄支出	3,432,000	6,072,000	△2,640,000
		ファイナンス・リース債務の返済支出	14,923,000	13,891,930	1,031,070
		その他の施設整備等による支出	76,119,000	76,118,424	576
		施設整備等支出計(5)	224,830,000	223,611,674	1,218,326
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		73,282,000	71,277,996	2,004,004
その他の活動による収支	収入	投資有価証券売却収入	445,000	445,005	△5
		積立資産取崩収入	71,393,000	71,993,569	△600,569
		その他の活動収入計(7)	71,838,000	72,438,574	△600,574
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	4,530,000	4,530,000	0
		積立資産支出	169,339,000	207,394,336	△38,055,336
		その他の活動支出計(8)	173,869,000	211,924,336	△38,055,336
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△102,031,000	△139,485,762	37,454,762
予備費支出(10)		0	—	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		9,873,463	25,754,261	△15,880,798	
前期末支払資金残高(12)		744,659,288	744,659,288	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)		754,532,751	770,413,549	△15,880,798	

法人単位事業活動計算書

(自)2024年4月1日 (至)2025年3月31日

(単位:円)

	勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	介護保険事業収益	1,299,452,029	1,344,941,884	△45,489,855
	老人福祉事業収益	308,171,639	317,813,160	△9,641,521
	児童福祉事業収益	442,667,271	439,281,001	3,386,270
	保育事業収益	116,063,880	116,252,823	△188,943
	就労支援事業収益	40,440,142	44,576,739	△4,136,597
	障害福祉サービス等事業収益	796,526,661	726,706,507	69,820,154
	その他の事業収益	41,311,400	30,054,300	11,257,100
	経常経費寄附金収益	17,545,874	8,637,368	8,908,506
	その他の収益	30,105,729	31,996,532	△1,890,803
	サービス活動収益計(1)	3,092,284,625	3,060,260,314	32,024,311
	人件費	1,800,195,704	1,838,146,035	△37,950,331
	事業費	681,099,140	676,413,394	4,685,746
	事務費	462,155,087	397,284,999	64,870,088
	就労支援事業費用	44,811,530	49,703,045	△4,891,515
	利用者負担軽減額	9,502,335	8,619,945	882,390
	減価償却費	250,365,689	252,057,389	△1,691,700
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△109,372,609	△106,933,747	△2,438,862
	その他の費用	23,349,052	23,349,052	0
	サービス活動費用計(2)	3,162,105,928	3,138,640,112	23,465,816
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		△69,821,303	△78,379,798	8,558,495
サービス活動外増減の部	受取利息配当金収益	6,367,847	8,065,731	△1,697,884
	その他のサービス活動外収益	6,333,831	10,141,816	△3,807,985
	サービス活動外収益計(4)	12,701,678	18,207,547	△5,505,869
	支払利息	5,491,132	5,798,156	△307,024
	投資有価証券売却損	4,995	0	4,995
	積立資産評価損	19,875,000	60,000	19,815,000
	その他のサービス活動外費用	4,649,235	5,306,732	△657,497
	サービス活動外費用計(5)	30,020,362	11,164,888	18,855,474
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	△17,318,684	7,042,659	△24,361,343
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	△87,139,987	△71,337,139	△15,802,848
特別増減の部	施設整備等補助金収益	40,689,500	25,549,350	15,140,150
	施設整備等寄附金収益	4,100,000	3,780,000	320,000
	固定資産売却益	133,523,149	79,998	133,443,151
	特別収益計(8)	178,312,649	29,409,348	148,903,301
	固定資産売却損・処分損	36,943,457	4,357	36,939,100
	国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	0	△828,688	828,688
	国庫補助金等特別積立金積立額	40,689,500	25,549,350	15,140,150
	特別費用計(9)	77,632,957	24,725,019	52,907,938
特別増減差額(10)=(8)-(9)		100,679,692	4,684,329	95,995,363
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		13,539,705	△66,652,810	80,192,515
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	1,992,657,030	2,029,889,365	△37,232,335
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	2,006,196,735	1,963,236,555	42,960,180
	基本金取崩額(14)	0	0	0
	その他の積立金取崩額(15)	65,526,104	67,059,437	△1,533,333
	その他の積立金積立額(16)	163,337,961	37,638,962	125,698,999
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,908,384,878	1,992,657,030	△84,272,152

第三号第一様式

法人単位貸借対照表

2025年3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増減	勘定科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,077,802,143	1,048,372,611	29,429,532	流動負債	509,215,796	401,286,760	107,929,036
現金預金	574,705,193	629,636,688	△54,931,495	短期運営資金借入金	100,000,000	100,000,000	0
事業未収金	437,037,026	357,181,369	79,855,657	事業未払金	108,356,440	102,991,260	5,365,180
未収金	801,635	274,388	527,247	その他の未払金	25,643,808	248,600	25,395,208
未収補助金	32,150,415	39,431,810	△7,281,395	1年以内返済予定設備資金借入金	55,082,000	55,282,000	△200,000
医薬品	521,942	275,548	246,394	1年以内返済予定長期運営資金借入金	104,530,000	4,530,000	100,000,000
商品・製品	504,650	705,150	△200,500	1年以内返済予定リース債務	14,285,460	9,721,270	4,564,190
原材料	7,704,852	7,292,094	412,758	未払費用	51,383,196	68,725,812	△17,342,616
立替金	8,192,932	1,846,506	6,346,426	預り金	5,239,046	1,016,915	4,222,131
前払金	180,770	181,050	△280	職員預り金	5,588,846	19,921,903	△14,333,057
前払費用	16,002,728	11,548,008	4,454,720	賞与引当金	39,107,000	38,849,000	258,000
固定資産	4,682,303,822	4,822,080,393	△139,776,571	固定負債	827,011,234	954,325,549	△127,314,315
基本財産	3,248,077,593	3,535,063,231	△286,985,638	設備資金借入金	464,388,000	519,470,000	△55,082,000
土地	51,575,088	91,706,845	△40,131,757	長期運営資金借入金	13,590,000	118,120,000	△104,530,000
建物	3,195,502,505	3,442,356,386	△246,853,881	リース債務	44,673,680	23,284,280	21,389,400
定期預金	1,000,000	1,000,000	0	退職給付引当金	301,778,554	292,712,269	9,066,285
その他の固定資産	1,434,226,229	1,287,017,162	147,209,067	役員退職慰労引当金	2,581,000	739,000	1,842,000
土地	64,914,764	64,914,764	0	負債の部合計	1,336,227,030	1,355,612,309	△19,385,279
建物	134,148,590	147,867,939	△13,719,349	純資産の部			
構築物	28,165,447	27,188,397	977,050	基本金	204,186,865	204,186,865	0
機械及び装置	2,989,379	3,560,278	△570,899	国庫補助金等特別積立金	1,569,404,967	1,673,906,432	△104,501,465
車輛運搬具	3,747,854	3,791,905	△44,051	その他の積立金	741,902,225	644,090,368	97,811,857
器具及び備品	83,449,379	56,178,876	27,270,503	建設積立金	91,890,191	95,127,442	△3,237,251
有形リース資産	49,681,676	21,358,446	28,323,230	人件費積立金	65,439,000	55,600,000	9,839,000
権利	3,733,334	3,753,334	△20,000	施設整備等積立金	551,053,150	460,113,642	90,939,508
ソフトウェア	2,645,072	402,417	2,242,655	工賃変動積立金	2,750,000	2,750,000	0
無形リース資産	8,750,060	11,644,820	△2,894,760	設備整備積立金	13,000,000	13,000,000	0
投資有価証券	0	450,000	△450,000	奨学資金積立金	17,769,884	17,499,284	270,600
退職給付引当資産	301,778,554	292,712,269	9,066,285	次期繰越活動増減差額	1,908,384,878	1,992,657,030	△84,272,152
役員退職慰労引当資産	2,581,000	739,000	1,842,000	(うち当期活動増減差額)	13,539,705	△66,652,810	80,192,515
建設積立資産	91,890,191	95,127,442	△3,237,251				
人件費積立資産	65,439,000	55,600,000	9,839,000				
施設整備等積立資産	551,053,150	460,113,642	90,939,508				
工賃変動積立資産	2,750,000	2,750,000	0				
設備整備積立資産	13,000,000	13,000,000	0				
奨学資金積立資産	17,769,884	17,499,284	270,600				
長期前払費用	2,607,895	5,233,349	△2,625,454				
その他の固定資産	3,131,000	3,131,000	0	純資産の部合計	4,423,878,935	4,514,840,695	△90,961,760
資産の部合計	5,760,105,965	5,870,453,004	△110,347,039	負債及び純資産の部合計	5,760,105,965	5,870,453,004	△110,347,039

(福)黒松内つくし園各事業所 2024年度事業報告

児童養護施設

黒松内つくし園

2020年に「社会的養育推進計画」が策定され、子ども子育て政策の強化を本格的に実行するために、施設についても機能強化が求められています。そのような状況のもと、当施設においても施設の規模化に向け、2024年4月から定員数を10名減員し本園を60名定員でスタートしました。

年度当初は本園54名、ホームすぎな6名でスタートし、入所率は1年を通じて90%以上を確保する事ができました。職員配置基準については年度当初は4・0:1の配置でスタートしましたが、10月以降は4・5:1の配置基準に低下。1月に職員を中途採用したため、1月～3月は4・0:1の配置基準に戻し、安定した施設経営を維持する事ができました。

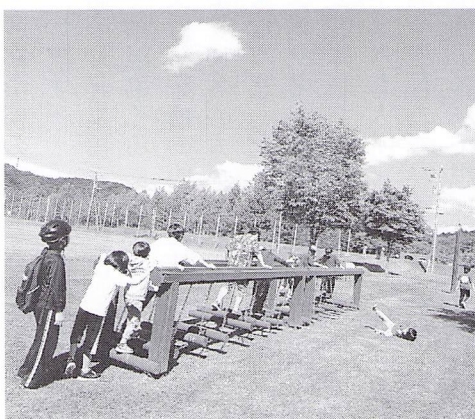
支援面においては権利擁護の侵害が起らないように努め、外部講師を招いた研修や

職員の資質向上に繋がる園外研修、オンライン・配信研修を積極的に受講させるよう取り組みました。

支援の難しい児童にも懇切丁寧に対応し、苦情等に繋がる事はなかったものの、児童の特性による事故が多く対応に苦慮するケースがありました。

人材不足で支援体制が整わない中でも、行事については児童が楽しめる内容の工夫等をしながら実施する事ができました。

人材確保が大きな課題となっており、1月1名、2月1名の生活支援員（正職員）を採用しましたが、退職者数を下回っているため、従来必要人員には達していない状況です。



認定こども園

黒松内保育園

本年度も法人の倫理綱領・定款理念・保育園基本理念のもと事業を推進してきました。

認定こども園（保育所型）となり、黒松内町の子どもたちを教育養護・保育する唯一の施設として、子ども一人ひとりの発達に応じた「10の姿」を盛り込んだ保育計画を実施してきました。地域唯一の就学前施設としての役割を十分に果たせるよう関係機関と連携を深め、個別支援にも力を入れています。幼保小連携では5年継続して進めてきたことが子どもにより良いステップとなっています。

感染症などを考慮し、保育を進めるために環境の整備を行いました。また、園に併設している子育て支援センターでの地域貢献事業の取り組みも徐々に定着しています。特に一時預かり事業は、気軽に利用できる機関として保護者の皆さんに好評いただいております。他園の支援センター見学も実施しました。

子どもの自主性を育む事を中

心に保育を目指し、自然を積極的に取り入れてきました。職員の働く意義を持てる職場となるよう業務改善や研修を取り入れ人材育成に務めました。しかし、保育人材確保・定着については困難な状況であります。

園駐車場の整備、遊戯室ホールのエアコン設置、調理用給湯器の交換。支援センターに個室として利用できる工夫をしたことで、お昼寝・授乳がしやすくなり、職員の休憩室としても活用できていました。入所園児は転出により減少しましたが、年間を通して安定した運営ができました。



養護老人ホーム

緑ヶ丘老人ホーム

拠点内事業に於いて各事業所が連携を図り事業展開を行ってきました。養護については4月65名からスタートしました。入所の件数は例年の倍以上の20名の入所がありました。特定施設利用者を中心に入院、死亡、長期入院による退所者が多く、退所は18件。3月末時点での在籍者は66名。平均初日在籍者は68・5名となりました。それに伴い特定施設の稼働率も78・2%（昨年度86・0%）と前年度を下回り予想以上の減少に繋がりました。短期入所は稼働率27%（前年度26・3%）と若干上回りました。

デイサービスセンターは、4月1日時点で登録者45名。施設入所や死亡、9月に勤医協ふきのとう閉鎖に伴い、多少の増減はありましたが3月末時点の登録者は47名となりました。47名のうち要介護者が9名、総合事業が34名、生きがい事業4名と、要介護者の割合が低く収入が上がりません。10月より水曜日の営業を休止し、町より介護予防教室（まる元体

操）運営業務の委託を受け実施しています。

居宅介護支援事業所は、9月末で勤医協くろまつない居宅介護支援事業所の廃止に伴い、10月より16名の方が当事業所に移行となりました。勤医協より中村ケアマネを採用し10月より職員2名体制で運営しています。例年よりも入所、新規利用者は多かつたものの、死亡、退所、利用終了者が予想よりも多く、各サービス区分ともに厳しい運営状況となりました。施設整備として、地下タンクが設置より40年経過し腐食の恐れが高く流出事故防止の為、地下タンクFRPライニング施工を実施しました。



特別養護老人ホーム

緑ヶ丘ハイツ

介護職員の不足が深刻な状態の中、利用者の確保を制限しながら入所60名を目標に運営を進めてきました。しかし、目標達成に向け入所の受け入れをする

も急な入院・退所等も重なり利用者が増えない現状であり、待機者についても営業活動は実施しています。職員についても、新規採用はなく諸事情による退職者があり、現状の夜勤体制を維持する事が難しい状態に陥っています。

その中で、法人や関係機関とも今後の事業展開の検討を重ね、2025年度については利用定員を40名の1フロア体制とし、職員も適正に配置しながら経営の安定化を図ることとなりました。その決定に伴い、3階改修工事を完了し入所定員の調整を行い、3月末日の利用者数を42名に減員しました。

そのような中でも、職員が必死に試行錯誤し力を発揮し、力を合わせ一致団結しながら安全を追い求め、大きな事故等

もなく事業運営することができました。また、日々の業務の中で、少ない人数にも関わらず一人ひとりが倫理観・法令順守を心掛け、常に安心・安全で信頼が得られるようなサービス提供を心掛け、利用者の日々の生活を守る事ができました。

今後は、一年間の反省を糧に職種を問わず職員が一つになり、利用者にご満意いただける質の高いサービス提供に努めていくとともに、施設の運営方針をしつかり見定めながら取り組んでまいります。



介護老人保健施設

湯の里・黒松内

長期入所部門では、高稼働率を確保するべく近隣町村の関係機関、病院等への働き掛けを行いました。

しかし、新型コロナウイルス感染症が施設内で発生し、利用者・職員含め42名が感染しました。過去の経験と俱知安保健所の指示のもと、迅速で適切な対応を行い、重症化することはありませんでした。この間、新規利用者の受け入れはできず稼働率は低下。年間で19名の方が退所され、特に10月からは毎月1〜3名が退所されたことで、新規利用者の入所が追つかず稼働率が低下しました。

短期入所では、42%の稼働率でしたが、新規利用があってもすぐに入所に移行し高稼働率にはなりません。通所リハビリでは、年間を通して82・1%の稼働率でありました。上半期は比較的高稼働率を維持してきたものの、下半期では入院や施設入所が多く稼働率が低下しました。新規利用の方を増やして短期入所・長期入所につなが

るように、施設利用の窓口的な役割も十分果たしております。訪問リハビリでは、町外から1

名の利用にとどまっております。今後は町内の方での利用を広げて行きます。

職員の状況では、原医師が退職され、医師不在期間もなく仲田医師が着任しました。看護師や介護員は採用と異動等で確保2名の特定技能生を受け入れしました。国籍を問わず職員全員が良好な関係を築いており、日頃から何かあれば相談しやすい、気軽に言い合える環境が維持できたと考えます。

施設整備では、黒松内町の協力を得て、ホールエアコン設置とナースコール更新事業を実施しました。



障がい者支援施設

後志リハビリセンター

2024年度の利用者動向について、入所者2名、医療施設への転出や死亡により退所者4名と定員(40名)に達しない状態が続き、稼働率は施設入所92・1%、生活介護93・5%、短期入所23・7%と。短期入所を除き微減となりました。このように中、本施設では利用者の安定確保を図るため、道内はもとより道外の相談支援事業所等の関係機関への渉外活動を強化しているところであり、新年度においても継続していくこととしております。

資金収支の状況について、収入においては稼働率の微減傾向が続きましたが、人員配置加算や通院・入浴支援加算等の取得により前年度より増加となりました。一方で、支出においては、物価高騰による給食材料費、光熱費等の増加により、収支がほぼ同額の決算となりました。

職員については、年度中における退職者はなく、8月末に特定技能2名が入職したことから、



人員配置加算1・1・5の取得をはじめ、他事業所への職員派遣や休職者・育休者に対応することができました。重度化が進む利用者への適切な支援や有給休暇取得率の向上など、働きやすい職場環境づくりに繋がりました。

施設整備については、変電設備を更新し施設運営に不可欠な電力の安全供給を確保するとともに、老朽劣化が顕著であった特殊入浴装置を清水基金からの助成金(360万円)を受け、2025年度で整備(更新)することとなりました。

障がい児入所施設

しりべし学園

令和6年度は、年度当初契約で男児1名の受け入れを行い、措置16名、契約7名の計23名でのスタートでした。その後、6月2日に手術のため退所していた女児を契約で受け入れ、措置では男児2名の受け入れを行いました。



余暇支援については、感染対策を徹底し、利用者の意向を聞きながら、町内行事に参加し町民との交流の機会を設けたり、町外への外出支援やスポーツ大会への参加などを行い、フライングディスク大会に参加した高校生男児1名が令和7年度全国障害者スポーツ大会の北海道選手団代表に選出されるという明るい話題もありました。「ふれあいまつり」については5年ぶりにステージ部門を再開させ、町内法

人施設に案内し来場を呼び掛け、初めてキッチンカーも活用し実施することが出来ました。

施設移行支援では、本人や保護者の意向を確認しながら学校と連携し、施設見学、実習等を進め、3月中旬に高校3年生4名が進路先に移行しています。

【南後志児童デイサービスセンター】

今年度は育児休暇中の職員が1名いましたが、2名の新卒スタッフが加わり、年度当初37名の利用でスタートし、その後5名の増員がありました。また、年度途中で病気により1名休職者が出ましたが、スタッフ同士でフォローし合い、担当ケースの療育活動を可能な限り継続して実施し、日頃の療育活動の他、海遊び等の行事を企画し、多くのご家族に参加していただいていた実施する事ができました。職員の専門性向上に向けては、各種研修会への参加により見識を深めるとともに、関係機関とのケースカンファレンス、支援事業を開催し利用児童や家族についての情報を共有し、療育活動の充実に務めました。

障がい者支援施設

しりべし学園成人寮

しりべし学園成人寮は生活介護54名、施設入所59名でのスタートとなりましたが、3月末現在で生活介護52名、施設入所57名となりました。

年間行事を充実させ、メリハリある支援を行えるよう、町内行事に参加し小グループで外出をする機会を設け、ほとんどの利用者が外出を楽しむことができました。

12月にノロウイルス、2月にコロナウイルスと集団感染が続きましたが重症化せずに終息することができました。感染症委員会でも集団感染発生時の対応を振り返り、初期対応や居室分けの見直しを行いました。感染症対策・災害発生時等BCP、マニュアルを更新しました。

虐待防止については虐待0に向けて全事業所で意識改革を行っており、10月から支援における重点目標と障害者虐待5類型を毎朝読み合わせしています。

法人主催の虐待防止研修にもほぼ全職員が参加し、事業所内

でも全員参加型の権利擁護研修を実施し研修後に確認テストを行うことで理解度の確認をしています。

しりべしワークセンターセオスでは、商品についてはお客様からの評判も良く、新しい職員や利用者へ技術の伝達を行い、それぞれの作業で技術の向上に努めました。クリーニング課では、寝具リース事業、洗濯請け負い事業を次年度より実施することとなりました。

いずみホームでは特定検診、健康診断を受け、健康状態の把握に努め、必要であれば医療機関を受診しています。黒松内町保健福祉課とも高齢利用者の情報共有をしており、スムーズにサービスを提供出来るよう連携しました。



俱知安地区事業所

本年度は、「最後の最後まで」をテーマに複合福祉施設内全事業の廃止に伴い、「認知症対応型共同生活介護つくしんぼ」の事業廃止、就労継続支援B型事業所の「人と人をつなぐ陽だまり」を廃止し、「羊蹄セルプ」へ事業統合という大きな再編の実行に職員一丸となって取り組みました。

統合業務では、地区全体での取り組みのほか双方の事業所にて通常運営と事業再編に係る業務を同時に進めるといった困難な状況下ではありましたが、利用者が安心して通所できるよう細部にわたる面談や調整を重点的にを行い、結果、懸念しておりました対人関係や環境の変化などによる通所困難者も予測を下回る最小限に留めることとなり、利用平均者数や稼働率も目標値を達成する成果を生むことが出来ています。また、介護保険事業から異動した職員も徐々に業務に慣れ、発展途上ではございますが組織として少しずつ機能しはじめております。

ただ統合した陽だまりの利用者の通所の安定化を図るため、統合時に作業担当等を2分化した手法をとったことから、形式上の統合は果たせたものの1つの建物に2つの事業が存在しているという状態になっており、2025年度はそれを1つにまとめた真の統合に向けて着手して参ります。

この度の俱知安地区の事業統合にあたり、ご利用者、ご家族、地域住民の皆様、関係機関の皆様方には沢山のご迷惑をお掛け致しましたことに改めてお詫び申し上げますと共に、15年に渡り複合福祉施設を支えて頂きご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。



えぞふじ納豆

蝦夷富士（羊蹄山）の湧水を使用した
手作り納豆をご賞味ください。



しょうがいしゃの就労と生活を支える **羊蹄セルプ**

TEL (0136) 23-0425 FAX (0136) 22-1985

URL <http://www.selp.jp/>

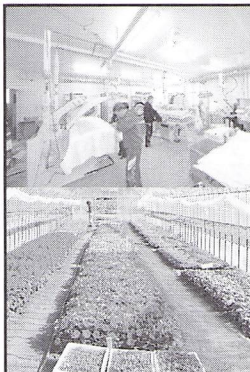
しりべしワークセンターセオス

当事業所(就労継続支援B型事業)は、障がいを持った方の就労支援をサポートしております。お仕事のご相談などお気軽にお問合せください。

【クリーニング課】ワイシャツ(170円～)・スーツ(紳士1,400円～)・毛布(800円～)・制服(1,100円～)・ジャンパー(650円～)・ズボン(500円～)など

【印刷課】名刺(850円～)・封筒・用紙・製本・大判印刷・伝票・挨拶状・年賀状・シール・クリアフォルダー・データ作成 など

【園芸課】花苗・野菜苗・しめ縄・椎茸・和紙・ポストカード・切り絵



〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内565番地2 E-mail: s.gakuenseiseosou@tsukushien.or.jp

【クリーニング課】TEL.0136-72-3914 【印刷課】TEL・FAX.0136-72-3820 【園芸課】TEL.0136-77-2950 FAX.0136-72-3952

養護老人ホーム 特別養護老人ホーム

老人福祉施設 慶和園

「動き出しはご本人から実践研修」でご利用者とのかわり方を改善

昨年度は、最優先課題としていました「虐待・不適切なケアの撲滅」について、理念研修や虐待予防研修会、各種グループワーク研修会を通じて自身のケアの振り返りを重ね、利用者への権利擁護の意識を高めることができました。

特に、「動き出しはご本人から実践研修」では、これまでの利用者とのかわり方について見直しを図り、ご本人が主役となるケア（相手に伺うコミュニケーション・セッション）の実践を重ねました。3月に開催した「ご家族との懇談会」では、当該取り組み内容をご家族にも報告。理解を深めていただくことができました。

また、昨年3月に実施したユニット職員の大規模な異動は、各スタッフの視野を広める（良いものを受け入れ、悪しきものを

改善する）良い機会となりました。

新年度は、この取り組みを更に推進し、組織強化を図ります。

一方で近年、養護・特養共に入所稼働率の減少（養護89%・特養92%）が顕著となり、食料費、燃料費等の物価高騰と設備機器の更新時期とも相まって、大変厳しい経営状況となっております。

新年度は養護・特養の入所相談受付機能の一本化を図り、柔軟かつスピーディーな対応を推進。地域関係機関との連携強化（定期的に空床情報を共有・入所依頼から入所までの期間を短縮化など）により利用稼働率95%を目指します。また、施設運営におけるムリ・ムダ・ムラを徹底的に削減し、健全経営につなげて参ります。



「動き出しはご本人から実践研修会」の様子

養護老人ホーム

特別養護老人ホーム

泊村老人ホーム むつみ荘

2024年度は、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザなど数名の入居者や職員が罹患しましたが、ゾーニング等、拡大防止策を徹底した結果、拡大することなく少人数で押さえることができました。面会につきましては、ご家族以外にも知人や地域の方々が居室での面会や外出・外泊を実施できていることで、ご家族アンケートでも高評価を頂いております。加えて、むつみ荘祭りはコロナ前と同様に地域イベントの一つとして実施することができました。

家族会でも今年度一部のユニットではありますが数年ぶりに開催することができ、食事だけではなく、情報の共有など家族とかわりも深まっていることと評価しております。

また、特養では、入居者の「個人の尊厳」と「暮らしの継続」を守るため、引き続きユニットリーダーの養成やユニット毎の研修会の開催などを実施し、サー

ビスの質の向上並びに体制の強化に努めてまいりました。結果、特養の開設当時から目標のひとつでありました、日本ユニットケア推進センター実地研修施設に合格することができました。養護では、入居者の外出など希望に応じた支援を実施し、サービスの質の向上並びに体制の強化に努めました。

なお、施設稼働率については、営業活動を積極的に実施した結果、最終的に養護・特養ともに目標値を高水準に達成し、安定的な経営に繋げることができました。



退任あいさつ



認定こども園

黒松内保育園

施設長

佐藤美次喜

この度、6月末日を持ちまして、黒松内保育園施設長を退任いたしました。

社会福祉法人黒松内つくし園で過ごした年月は、子どもたちの笑顔と、役職員の皆様、そして保護者の皆様のご協力があってこそでした。

子どもたちの成長を間近で感じ、ともに多くの楽しい時間を過ごせたことを、心から感謝しております。

日々、子どもたちの成長の幅の広さに驚き、感動し、多くの喜びをいただきました。

新型コロナウイルス感染症の流行という困難な時期もありましたが、職員一同、知恵を出し合い、「明日も楽しい保育園」を目指して保育に取り組んできました。皆様のご理解とご協力、そして温かいご支援に、深く感

謝申し上げます。

この黒松内の豊かな自然の中で、これからも多くの園児たちがすくすくと育ち、卒園していくことを願っております。

社会福祉法人黒松内つくし園の更なる発展を祈念し、退任のご挨拶とさせていただきます。

就任あいさつ



認定こども園

黒松内保育園

施設長

杉村 克司

この度、7月より黒松内保育園の施設長に就任いたしました杉村克司と申します。

子どもたちにとって保育園は、大好きな人や楽しい出来事に溢れ、お家のように安心できる温かい場所です。保護者の皆様にとっては、大切な子どもを安心して預けられる、心のよりどころとなるような場所でありたいと考えております。地域に愛される保育園として、職員一同力を合わせ、かけがえのない温か

い園づくりに取り組む決意です。子どもたちは日々変化しています。私たちは、その変化を見逃さず、考え、実践することで、子どもたちにとって最善の保育を目指します。

職員とともに、「子どもたちの豊かな感性と人間関係を育むために何が必要か」を常に問い続け、保育現場に反映させていきます。

「明日も行きたい！楽しい保育園」を目指し、職員全員で取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。



泊村老人ホーム

むつみ荘

施設長

野崎 幸男

この度、4月1日より「泊村養護老人ホームむつみ荘」「泊村特別養護老人ホームむつみ荘」の施設長に就任いたしました野崎と申します。

平成25年4月から法人に勤めさせていただき、泊村だけではなく、黒松内町の特別養護老

人ホームや俱知安町のグループホームなど、同法人の高齢者施設で沢山のことを学ばせて頂き、3年前に再び泊村へ戻ってきました。

学びの中で、ここ（むつみ荘）は入居者の皆様にとっての「住まい」であり、主人公は入居者様お一人おひとりです。皆様が心地良かつ安心・安全に暮しになること、そこに私たちスタッフが寄り添い、皆様を「笑顔」に導くための仕掛けづくりを行います。

さらに、ご家族や地域の方々の協力を得て、共に築き、作り上げていくものと考えています。入居者様同士のお喋り、スタッフとの何気ない日常のやりとりから、飛び切りの笑顔が溢れる、そんな温かな施設づくりを目指してまいります。

皆様より「ここに入居して良かった」と思っていただけるように、微力ではございますが、より一層精進してまいりますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、今後とも宜しくお願いいたします。

施設長・副施設長名簿

社会福祉法人黒松内つくし園

2025年7月1日 現在

施 設 名		職 名	氏 名	就任年月日	
児童養護施設	黒松内つくし園	施設長	ふじ 田 つよし 藤 剛	2023年4月1日	
地域小規模児童養護施設	ホームすぎな				
子育て短期支援事業	黒松内つくし園				
養護老人ホーム	緑ヶ丘老人ホーム	施設長	おか ひさ けん いち 岡 久 健 一	2023年4月1日	
短期入所生活介護事業					
特定入居者生活介護					
訪問介護等事業					黒松内つくし園ホームヘルプステーション 休止中
包括支援センター事業					黒松内町地域包括支援センター
居宅介護支援事業					黒松内つくし園居宅介護支援事業所
老人ディサービス事業	黒松内町ディ・サービスセンター	施設長	と 富 がし こう き 富 樫 孝 貴	2021年4月1日	
福祉型障害児支援施設	しりべし学園				
短期入所事業					
移動支援事業					
児童ディサービス	しりべし学園児童ディサービス				常務理事 ・施設長
日中一時支援	しりべし学園日中一時支援				
障がい者支援施設	しりべし学園成人寮				
短期入所事業	しりべしワークセンターセオス	常務理事 ・施設長	あそ べ ま すみ 遊 部 真 澄	2018年4月1日	
就労支援事業					
共同生活援助					いずみホーム
特定相談支援事業所					黒松内つくし園特定相談支援事業所（障害児）
特定相談支援事業所	黒松内つくし園特定相談支援事業所	理事・施設長	だか はし ひで とし 高 橋 英 俊	2025年4月1日	
障がい者支援施設	後志リハビリセンター				
短期入所事業					
特別養護老人ホーム	緑ヶ丘ハイツ	業務執行理事 ・施設長	よし だ たけし 吉 田 剛	2021年4月1日	
短期入所生活介護事業					
就労支援事業	羊蹄セルブ	施設長	おお せこ たく や 大 迫 拓 哉	2020年4月1日	
福祉ホーム	羊 蹄				
共同生活援助	つくしホーム				
生活支援ハウス	和				
無料又は低額介護老人保健施設	湯の里・黒松内	総合施設長	なか た はる お 仲 田 治 夫	2024年11月1日	
ユニット型介護老人保健施設					
短期入所療養介護		施設長	しま ひろ し 嶋 宏 志	2023年4月1日	
通所リハビリテーション					
訪問リハビリテーション	慶和園	理事・施設長	しが や つよし 澁 谷 剛	2015年4月1日	
養護老人ホーム					
短期入所生活介護事業		ユニットケア慶和園	副施設長	やま なか さち よ 山 中 幸 代 (兼務)	2020年4月1日
特別養護老人ホーム					
短期入所生活介護事業					
短期入所生活介護障がい	泊村養護老人ホームむつみ荘	施設長	の ざき さち お 野 崎 幸 男 (兼務)	2025年4月1日	
養護老人ホーム					
短期入所生活管理指導事業受託事業					
特別養護老人ホーム	泊村特別養護老人ホームむつみ荘				
短期入所生活介護事業					
認定こども園	認定こども園黒松内保育園	施設長	すぎ むら かつ し 杉 村 克 司	2025年7月1日	
	総務部	部 長	さ さ き つかさ 佐 々 木 司	2023年4月1日	
	財務部	部 長	おか だ かず ゆき 岡 田 一 之	2023年4月1日	
	人事部	部 長	おい きり さ お り 追 切 さ お り	2023年4月1日	
		次 長	く だう あつ こ 工 藤 敦 子	2025年4月1日	
		事務長	お 小 がわ のぶ お 小 川 展 生	2023年7月1日	

虐待防止研修会開催

6月16日、「虐待防止研修会」を開催しました。当日、会場の黒松内つくし園体育館には100名超の職員が集合。オンラインにより参加した職員も含めると約250名が受講しました。

法人各事業所では虐待防止委員会の設置、職員研修などの防止対策を講じていますが、全職員が虐待に対する理解を深め、虐待防止策をさらに学ぶため、昨



講師の大島康雄先生

年に続いて研修会を開催しました。

には、昨年同様、星槎道都大学社会福祉学部社会福祉学科准教授であり、全国介護支援専門員協会常

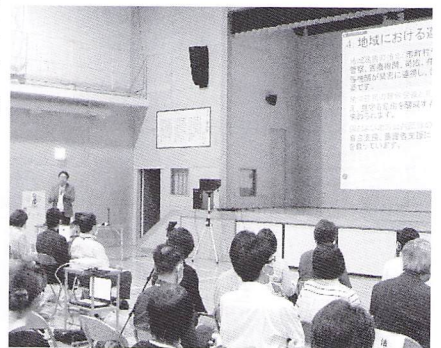
務理事・北海道介護支援専門員協会会長を務める、大島康雄先生をお招きしました。

研修会では、様々な資料による講義とグループワークも行われ、会場では活発な意見交換がされていました。研修内容は大変わかりやすく、



とても有意義な90分間の講義でした。

今後の虐待防止対策に大いに役立つものとなりました。これからも、法人を挙げて虐待防止と根絶へ向けて、この研修の他にも様々な取り組みを行い、役職員一同より良い福祉サービスの提供に努めてまいります。



法人会務の運営状況

(2025年5～6月開催分)

- ◆ 5月1日 施設長・副施設長会議(臨時)
- ◆ 5月13日 施設長会議
- ◆ 5月14日 リスクマネジメント委員会
- ◆ 5月19日 内部監査
- ◆ 5月20日 虐待防止委員会
- ◆ 6月4日 決算監事監査
- ◆ 6月9日 第445回理事会
- ◆ 6月10日 施設長・副施設長会議
- ◆ 6月16日 苦情解決委員会
- ◆ 6月17日 法人虐待防止研修会
- ◆ 6月24日 評議員選任・解任委員会
- ◆ 6月24日 第57回評議員会
- ◆ 6月29日 第446回理事会
- ◆ 6月30日 しりべし学園・成人寮ふれあいまつり
- ◆ 6月30日 業務改善推進委員会

ご厚志に心から感謝申し上げます

(令和7年4月1日から令和7年6月30日まで)敬称は略させていただきます)

お詫びとご案内

社会福祉法人黒松内つくし園会報「ブナの里」では、これまで法人へのご厚志をいただきました皆様のご芳名を掲載してきましたが、個人情報保護の観点から、個人の方からのご厚志の紙面掲載を控えさせていただきます。

当法人へのご厚志に感謝申し上げますとともに、どうぞご理解のほどよろしくお願い致します。

黒松内つくし園後援会(黒松内町)、あいおいニッセイ同和インシユアランスサービス(札幌市)

編集後記は紙面の都合により休止します

ふれあいまつり開催

6月29日、しりべし学園・しりべし学園成人寮特設会場にて「第57回ふれあいまつり」を開催しました。

天気は快晴で気温30度に迫る中、



利用者・ご家族の皆さん、ふれあいまつりを楽しんでおられました。ステージでは黒松内保育園児のかわいのお遊戯や嘉門純樹社中の素晴らしい舞踊、黒松内吹奏楽団の演奏、学園和太鼓クラブの迫力のある太鼓を披露し(Ⅱ写真Ⅱ)、会場は大いに盛り上がりました。昨年に引き続き3台のキッチンカーに加え、新たに1台を誘致し合計



4店舗営業とし、既存の学園・つくし園、俱知安地区等の屋台(Ⅱ写真Ⅱ)も合わせてとても好評でした。

ふれあいまつりの目玉でもある花の無料配布(Ⅱ写真Ⅱ)について



でも花の数を増やし、皆さんに満足して頂けたと思います。たくさ

んのボランティアや法人内施設にも店舗を出店していただき、皆様のご協力のもと大成功のうちに終えることができました。

しりべし学園、しりべし学園成人寮の利用者を始め、ご家族の皆様、法人内他施設利用者にも、とても楽しんでもらえたと思います。年に一度のイベントですが、57回目という歴史の重さと参加者の笑顔を見ていると、改めて「ふれあいまつり」の存在を大きく感じました。来年度以降もたくさんの方の笑顔をいただけるよう、ふれあいまつりを開催していきたいと思



法人会報「ブナの里」第149号

発行年月日 令和7(2025)年7月18日発行
 発行者 社会福祉法人 黒松内つくし園
 発行責任者 法人会報ブナの里広報委員会

社会福祉法人 黒松内つくし園

〒048-0101

北海道寿都郡黒松内町字黒松内562番地1

電話:0136(77)2833

FAX:0136(75)7211

E-Mail: honbu1@viola.ocn.ne.jp

URL:https://tsukushien.or.jp